

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201260		
法人名	社会福祉法人 清志会		
事業所名	紫明寮グループホーム		
所在地	熊本県天草市五和町二江567番地1		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	平成28年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	平成28年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者の身体状況に応じた個別ケアに力を入れています。軽作業やグループワーク等も1人1人の得意分野を普段の生活から見極め、利用者自身が喜んで行われることにより、毎日の生活に活性化ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

* 屋外では四季折々の自然環境を楽しめる活動を、室内では職員の細かな配慮のもと一人ひとりの個性に応じた活動を行っており、「静かなホームよりもエネルギーなホームを創ろう」の理念が実践されている。* 母体特養の理学療法士やシェフ・看護師等による、専門的な各種助言等を始めとして、法人内で合同研修や防災訓練を行う等相互に連携を図り、サービスの質の向上に努めている。* 管理者は利用者・家族・職員の声に真摯に耳を傾け、小さな意見・提案をも即時検討し実践するよう努めている。職員の工夫や配慮が随所に見られ、利用者は心豊かな暮らしを送ることができていると感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「静かなホームよりも明るく、エネルギッシュなホームを作ろう」の理念の下に支援を行っています。入居者やご家族の要望や希望を元に職員間で話し合いを行い、毎日楽しく安全に過ごせるようケアの統一を図っています、	「静かなホームよりも明るくエネルギッシュなホームを創ろう」の理念を、職員は日々課題を見つける毎に話し合いの中で共有し、ケアに反映している。ドライブや地域行事への参加等の多様な外出支援が行われる一方、リビングで職員と一緒に本を読んだりタオルたたみやゲームをする等屋内で充実した生活を送る姿も見られ、利用者一人ひとりの活動的な暮らしを実現している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にも積極的に参加しています。買い物ドライブ等も実施して外出することにより地域の方との交流も図っています。	地域の年間行事予定表や運営推進会議の委員から、イベント等の情報を得ている。ペーロン大会の見学では、毎回地域住民に椅子等の準備とともに迎えられ、温かい交流が続いている。文化祭や町中ギャラリー等の外出支援で友人・知人に会った際には、挨拶を交わし互いに近況を語り合う等、自然な交流が行われていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催。委員には区長・老人会長・民生委員をされている家族代表が参加されて、事業所の運営状況を地域・老人会へ発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者情報や活動を報告しています。会議参加者より認知症予防の為何か行っていることはないかの意見に対しては勉強会や研修会等に参加し実践した内容と写真を一緒に運営推進会議で報告しています。	運営推進会議は、利用者家族・地域住民の代表・知見を有する者・行政関係職員が参加して2カ月に1回開催。ホームの活動や事故・苦情等が報告され、意見交換・質疑応答が行われている。事故報告の際には、元看護学校教諭により転倒リスクに関する専門的なアドバイスを受けており、ケアに反映することでサービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターより参加いただき事業所運営に関する取り組みを伝えていきます。議事録は市の担当課へ送付し、意見の交換状況を伝えていきます。	地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の際だけでなく、日頃から地域高齢者の情報交換を行っている。また、ホームは福祉避難所の指定を受けており、市と協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	系列施設にて身体拘束委員会があり、年間を通した研修会、月二回の現状報告や話し合いをしています。安全の為に言っている言葉かけや行動、ベッド柵の使用などが拘束や虐待になっていないか都度話し合い改善を図っています。	法人内で行われる身体拘束委員会に管理者が出席し、月2回の現状報告を行っている。無意識に拘束に繋がる言動を行っていないか等、利用者を取り囲む環境や言葉かけを振り返ることで、拘束をしないケアの意識浸透を図っている。常に、拘束を行っている可能性がないか、ベッド柵や移動バーの設置等をチェックしたり、代替案を検討することで、拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部や併設施設の研修会に参加しどのような言動が身体的・精神的虐待になるか職員が理解するようにしています。職員間でも勤務中の言動に注意を払い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の概要が理解できるようパンフレットを置いています。又職員もご家族からの質問に対応できるように施設内研修に参加し理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に契約書や重要事項説明書の詳細について個々に十分説明しています。ご家族の心配な事、疑問点には説明を行い安心して入居ができるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況報告を詳しく行っています。毎月おたよりにて活動状況等をお知らせしています。介護計画書をご家族に送付する際に家族意見書もお送りしています。意見や要望を職員で話し合い計画書を作りケアに活かしています。	面会時の他、写真を添えた月1回のお便りで、利用者の状況を報告し家族の安心に繋がっている。家族の要望を取り入れ、事前に外出計画を知らせて外出先で家族と出会うように取り計らった事例では、出掛けるのが苦手だった利用者が喜んで外出に参加するようになっている。管理者・職員は利用者・家族と緊密にコミュニケーションを図る事を心がけており、信頼関係が築かれていると感じられた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員総会・月2回の主任会後の報告等やホーム内にて意見・提案を聴き取りしています。系列施設の職員からの意見やアドバイスもありより良いケアへと繋がっています。又話し合いに参加できなかった職員も後日に管理者と話し合いを行う等の体制もとっています。	管理者は職員の気付きや提案について、その都度意見交換を行っている。話し合いに不参加の職員には改めて意見を聞き取る機会を設けて、多様な意見を汲み取っている。洗濯バサミを使って指の訓練をする、食べ易いようにお盆の下に台を置く、椅子に手作りの明るい花柄の背もたれをかける等、随所に職員の工夫があり、やりがいを感じながら支援している様子が窺えた。	法人内の研修に管理者が代表で参加し内容をホームで復命しているが、他の職員も交替で参加することにより、更に理解が深まり、個々のスキルアップにつながると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時間の把握を行い、適正な労働条件で就業してもらっています。各研修会や系列施設での勉強会への参加・資格取得の積極的な呼びかけや支援を行いやりがいやスキルアップを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列施設にて毎月1回テーマを決めた各委員会(リスクや褥瘡委員会)、各部署の発表会や実技研修も行われています。外部の研修会に参加した職員による研修会報告も随時行われておりケア技術の向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設の職員が参加した研修報告書や発表会があり、研修報告書を回覧したり発表会に参加することで一緒に勉強会にすることができます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活を尊重しご本人との会話やご家族の要望等から望まれる生活について共に考えるように支援しています。入居されてご家族の事を心配される方には、ご家族と相談し面会を実施し安心される事で穏やかに生活されています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人共に見学などの機会を設けています。ホーム内の説明と案内を行いながら質問や相談を受けつけています。入居後も都度質問・相談を受けご家族との関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人・ご家族と面談し生活歴や希望等を伺い、まず何が必要か考え支援を行っています。運動機能向上の希望の方には系列施設の理学療法士の指導を受けての安全な訓練の実施も説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴等、職員間で共有することにより生活のあらゆる場面において助けあい・補い合って生活しています。家事を毎日楽しみにされています方には洗濯物たたみ等をお願いし終了後には感謝の言葉を掛けることで喜ばれています。リハビリ希望の方には職員と一緒に実施し体力などの維持・向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご自宅の事など不安にされる方には毎日安心して生活していただく為ご家族との連絡を密に行い面会などをお願いしています。又。電話の取り次ぎを行い声を聴くだけでも安心されています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞い等を出すことにより、なかなか会えない方との交流を図っています。受け取られた方より返事が届くと皆さん喜んでおられます。地域の催し物にも参加し顔なじみの方との交流継続を支援しています。	以前交流のあった人の住所を家族から聞き取り、利用者に葉書を出す事を提案している。音信の途絶えていた友人知人とのやり取りが復活し、年に数回の面会に繋がったケースもある。お盆に家族の協力を得て帰省する、職員の送迎で行きつけの理容室に通う等、利用者の馴染みの人や場との継続した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スムーズな交流が図れるよう、毎日の生活のどの場面にも職員が間に入り橋渡しを行い、良い関係が築けるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されて、ご自宅に戻られた後もご家族からの相談等にも対応しています。又一度退所されて再入所の場合でも、職員がご本人・ご家族と面談し退所前の生活を継続できるよう情報交換を行なっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の交流の中で、ご本人の思いをくみ取る努力をしています。思いの実現に向けて職員間で都度話し合いも行い記録に残しています。リハビリを頑張り自宅に帰りたくと頑張っておられる方には理学療法士と連携し訓練に励んでおられます。	入所時に、利用者本人・家族から利用者の生活歴や趣味等を詳細に聞き取るだけでなく、日常会話や表情からも利用者の思いを把握するよう努めている。午前中は一人で過ごしていた利用者が、午後には職員と一緒におしぼりを干す光景が見られ、一人ひとりの個性・特徴を把握し利用者のその時々思いに沿った支援を行っていることが伺えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人・ご家族から生活歴・ライフスタイル・趣味・望まれる生活など詳しく聞き取りをしています。自宅で生活されていた時、ご家族と一緒に料理を楽しみ美味しかった思い出を話される方には、思い出のメニューを聴き出し一緒に作り食べることで喜んでおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに個人ごとの1日の過ごし方を表記しており、半年毎のプラン変更時にはより良い生活を目指し、職員同士の連絡帳を作り毎朝ミーティングを実施し情報の共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者のケアチェック・他職員の気づき等を反映し介護計画書を作成しています。ご家族の意見や要望も確認しプランに反映しています。入院され退院後に身体の変化があれば職員とご家族一緒になってプランの変更を行っています。	利用者の担当職員が6カ月に1回モニタリングとアセスメントを実施。介護計画作成担当者を中心に、日常の観察や個別記録からの情報をもとに、カンファレンスを行っている。家族の意見要望を取り入れながら、理学療法士やかかりつけ医の意見も反映したプランを6カ月ごとに作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の変化がある毎に話し合いを行っています。気づき・変更事項は、記録に残し全職員の回覧にてケアの統一を図っています。又、個別のケース記録に残し、実践状況も確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	桜花見やテラスにて屋外での食事会を行う事で同じ食事でも景色を眺めることにより気分転換を図る等の対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事予定表をいただき日程を把握し参加しています。行事に参加することにより次の行事へのお誘いもあっています。地域行事に参加することにより交流も図れています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族と話し合いを行い協力医療機関をかかりつけ医にいただいています。専門的な医療を要する場合は、入所前の医療機関を継続し通院後は結果を報告しています。	入所時に、ホームの協力医療機関をかかりつけ医とする事を利用者・家族に説明し、了承を得ている。受診時はホーム職員が同行し、結果を家族に伝えている。毎日、全利用者のバイタルチェック表を特養に提出しており、嘱託医と看護師は利用者の健康状態を把握している。利用者急変時の対応手順書を整備しており、急変時には特養看護師へ利用者の情報を報告し連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、系列施設への報告を行っています。状態の変化もすぐに報告し、かかりつけ医から指示が受けられる体制が整っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先よりカンファレンスが行われる場合はグループホーム職員も参加し情報提供を行い安心して入院ができるように支援しています。長期の入院の際には職員が面会し状態把握を行いご家族にも連絡し、情報交換を行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人が重度化された場合は系列施設である特老にお移りいただき、安心した介護が受けられるという事を入所時にご本人・ご家族へお話しています。	重度化した際は母体の特養に移行してもらう方針であり、その旨をホームのパンフレットに明記し、入所時に利用者・家族に説明している。移行先の特養では、看取りケアまで可能である事を伝え、利用者・家族から了承を得ている。ホームの管理者を始め職員は、特養を訪れ対面して言葉を交わすことで、利用者の安心に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に系列施設で開催の緊急時対応・事故発生防止の為に指標等の勉強会に参加し適切な初期対応ができるようにしています。又、系列施設の看護職員と連携し急変時の連絡事項を統一し早急な対応に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網(グループホーム単独・系列施設)を整備し緊急時の連絡訓練をしています。又、火災(夜間想定を含む)等の避難訓練も実施しています。年2回の避難訓練、消防訓練を実施。系列施設からの応援を組み入れ避難時間の短縮になっています。	利用者参加の昼・夜間を想定した通報・消火・避難の総合訓練を年2回実施。法人内施設職員との緊急連絡網を整備して連絡訓練を行う等、法人各施設との協力体制を構築している。台風接近時等の気象情報を随時収集し、必要な場合には夜勤者を増やす等早めに対応し、利用者の安全確保に努めている。立地する島内に法人の職員が多数居住しており、迅速なホームの状況把握が可能であるため、災害時の対応の際にホームとしても心強いと思われた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴介助時、同性職員からの介助希望の方もおられますので、臨機応変に対応しています。	言葉使いや呼称については一人ひとりの個性を尊重し対応している。名字にさん付けて呼ぶのが基本であるが、「〇〇先生」または名前で呼ぶ事もある。時には方言を使い、利用者が理解し易い心地よい呼称・言葉かけを心がけている。排泄介助の際には、他の人に気付かれないようさりげない対応を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎食の食事メニューで食べたい物等を尋ね一緒に作りながら食べています。食後にゆっくりしたい方にはリビングやお部屋に誘導し休んでいただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間の変更や同性職員からの入浴支援等要望に応じて臨機応変に対応し支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日起床時や就寝時に洗顔や口腔ケアを日課とされる方には洗面台に誘導し必要物品を準備すると自力で実施されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自宅では朝食はパンだった方にはパンを提供する等、ご家族や本人から嗜好調査や情報収集行い対応しています。夏にはスイカ割り等実施し遊びを交えながら食事を楽しんでいただいています。	職員が季節感・彩り・盛り付け等に配慮した家庭的な料理を提供している。誕生日にはステーキ等の好物でお祝いし、喜ばれている。ベランダで海を眺めながらの青空食堂や季節毎の行事食の他、七夕と忘年会には母体特養のシェフ特製のごちそうが届けられる等、利用者が多様な食事を楽しめるよう支援している。利用者・職員が会話しながら同じ食事を摂っており、和やかで家庭的な雰囲気が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食・10時・15時のおやつ摂取量・水分量をチェックし記録しています。夜間の水分補給用に居室には白湯を準備しています。夏場は職員と一緒にかき氷を作りいろんなシロップを用意し楽しみながら水分補給を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に歯磨き誘導を行っています。残存歯の磨き上げ援助、職員による入れ歯洗浄を行い夜間は預かっています。居室で自ら出来る方には物品を用意しています。咀嚼・嚥下状態を観ながら口腔内に異常があれば歯科通院の援助も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居当初は大便の失敗があられる方にはご家族から自宅での排便習慣や方法を探ね、習慣を元に介助行い失敗の軽減に努めています。	ほとんどの利用者が、昼間はトイレでの排せつを基本としている。排泄チェック表でパターンを把握した上で、利用者の表情や動きから排泄のサインを察知し、声かけ誘導をして排泄の自立支援に努めている。夜間もトイレを使用する利用者の居室をトイレ近くにするここと、快適な排泄環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量を1200～1400ccの摂取を心掛けています。コーヒーやヨーグルト・牛乳も提供しています。食事にも排便促す食物繊維やオリゴ糖・オリーブオイル等を料理に取り入れながら体調を観察し散歩・起立訓練、体操などの運動を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しています。入浴ができない方には清拭を実施し身体清潔保持に努めています。個々身体状況に合わせた入浴を実施し安全な入浴に努めています。	一日おきの入浴が基本であるが、希望すれば毎日でも入浴可能。入浴時間は自由である。ユニットバスと機械浴があり、利用者の身体状況に応じて使い分けている。浴槽をまたぐ事が出来ない利用者も機械浴で安心・安全にゆっくりと浴槽に浸かる事が出来、利用者にとって入浴時は寛げる時間となっている。ゆず湯・菖蒲湯の他、職員持参のバラを用いたバラ湯もある等、趣向を凝らした支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビ前のソファに座りテレビ鑑賞されたり会話をして過ごされています。お好きな時間に居室に戻られ、居室で休まれる際も空調等で調整しています。居室にラジオや音楽を聴きながらゆっくり過ごされています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬リストにより用法・用量・目的等職員に申し送り把握するようにしています。注意事項、副作用についても注意しています。体調により追加の投薬があった場合も内容把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の収穫作業等職員と一緒にを行いその後の調理も行ってもらい楽しく過ごされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散髪等の希望があれば、行きつけの床屋さんまで送迎を行いお店の方と交流にも繋がっています。ご家族の送迎により定期的に出外されるご利用者もおられご家族との時間を過ごされています。ご家族と協力し外出支援を行っています。	お雛様や案山子見学、菖蒲やヒマワリの花見等、四季折々の外出支援がある。また、山菜取りやヨモギ摘みなど、日常的に自然を楽しむながらの散歩が行われている。家族の協力で定期的に外出する、職員と一緒に買い物に出かける等、個別の対応も見られた。ドライブでは、職員が花の咲き具合の下見をしておく、景色を楽しめるよう海沿い山沿いと往復の経路を変える、帰り道で買い物をする等、楽しむ為の細かな配慮が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば買い物ドライブを実施しお店まで出掛けて日用品やお菓子等を購入されています。系列施設にて買い物会が毎週実施されていますので参加し系列施設の職員やご利用者と交流を図っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を手書きしご家族に出されています。文書を書くことが困難な方には代筆する等の対応を行っています。ご家族の事を心配され落ち着かれない方にはご家族の協力を得て電話対応を行い安心されて生活されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入り、リビングと間仕切りのない広々とした空間が広がっています。季節の花等を飾り、月毎の行事の写真などを飾りご家族と一緒に見られています。季節が実感できる空間づくりに努めています。	広く明るいリビングの大きな窓から、イルカが生息する海を臨めるのは大きな魅力である。コスモスやタデ等の季節の花がホームの随所にさりげなく活けてあり、利用者の心を和ませている。また、好きな場所でゆっくり寛げるよう、ソファを初めリクライニング風や一人掛けなど、多種多様な椅子が各所に置かれている。タオルをたたむ、リハビリを兼ねたゲームをする、職員と穏やかに談笑する等、利用者が自由に過ごしている姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングは可動式の間仕切りで目的に応じた空間を提供することができます。リビングのテーブルやソファにて会話や趣味を皆さん楽しまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ヘラジコ等を持参されています。音楽鑑賞されたりして各自が思い思いに過ごされています。ご家族と相談し利用者にあった家具を持ち込んでもらい生活されています。	居室入り口にある利用者と職員と一緒に作った表札には、利用者の誕生日を連想させる季節感のある絵を飾っており、温かさが感じられる。ベッドを二つ入れても十分な広さの居室は、夫婦入所の際には2人部屋として利用可能である。家族写真を飾ったり、使い慣れた机と椅子を持ち込む等、その人らしい部屋作りとなっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力でトイレに行かれる方には、夜間でも安心して排泄ができるよう居室とトイレが近くになるよう配慮しています。		